

サンクチュアリセンターニュース vol.78



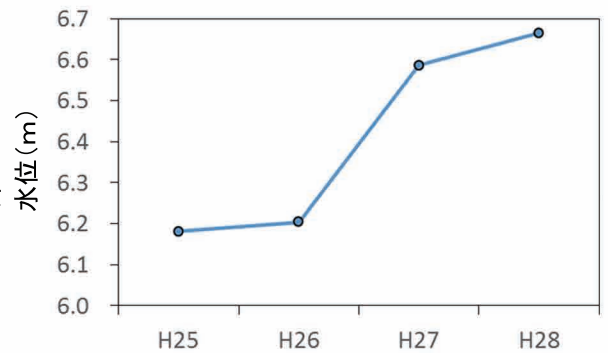
自然体験講座 ガンの飛立ち観察会&ラムサール湿地見学ツアーにて、マガンの飛び立ちに歓喜の声を上げる参加者のみなさん。

平成28年12月号

保全活動

自然再生協議会学識者会議 ～沼の水位が話題に～

今年の春先、伊豆沼・内沼の水位は例年よりも25cm高い状態でした。沼は平均水深が77cmしかないため、25cmの変化でも大きな影響が生じます。沼では、外来魚防除活動や水草の復元活動が長年取り組まれてきましたが、今年は春先の水位が高かったため、外来魚が駆除し難い場所で繁殖したり、水底まで届く光が減少して植えた水草も枯れてしまうなど、高水位が活動に影響を及ぼしました。また、センターニュースの8月号でも書きましたが、高水位でヨシ群落も浮島状態となっており、ヨシ群落消失の一要因になっているようです。水位管理の主な目的である防災や、農業用水、漁業の観点を大事にしながら、自然環境への影響を軽減できる水位管理を考えていく必要があるようです。



PP水位グラフ

調査・研究

宮城県ガンカモ類生息調査が行われました

11月9日、今季初のガンカモ類生息調査が県内一斉に行われました。この調査は、宮城県内のガン・ハクチョウ・カモの飛来地約500か所を対象に、11月（飛来初期）、1月（飛来最盛期）、3月（渡去期）の年3回、県職員や自然保護団体会員、当センター職員らが協力して行われます。昭和44年度から毎年継続されている歴史ある調査です。ガン類の飛来数は、伊豆沼では前年に比べてやや少なかったものの、県全体としては前年とほぼ同等でした。一方、ハクチョウ類とカモ類の飛来数は、伊豆沼・県全体ともに前年よりも多くなりました。北方の地域が寒冷になり、南下がやや早まったことがその一因かもしれません。また、飛来数の増加が目立った伊豆沼・内沼については、今季の秋は沼の水位が低く、いつも以上に食物が得られるために留まっている個体が多かったということもあるのかもしれません。

伊豆沼・内沼

種類	羽数			
	今年	前年	増減	前年比
ガン類	80,229	92,177	-11,948	13%減
ハクチョウ類	2,453	963	1,490	155%増
カモ類	8,061	1,088	6,973	641%増
合計	90,743	94,228	-3,485	4%減

宮城県全体

種類	羽数			
	今年	前年	増減	前年比
ガン類	132,845	130,468	2,377	2%増
ハクチョウ類	5,301	3,787	1,514	40%増
カモ類	46,066	22,909	23,157	101%増
合計	184,212	157,164	27,048	17%増

サンクチュアリセンター友の会にて小岩井農場へいきました

友の会 小岩井農場☆Happy ハロウィン☆が10月30日に行われました。小岩井農場は、創始者3名の名の冠を取って名付けられた、120年以上続く歴史ある農場で、岩手山の南麓に位置し、歴史的な建物などがあります。園内にはアトラクションや遊具、酪農品売り場や食事処などがあり、広い園内の遊具で遊んだり、温かい食べ物で温まったり、岩手山と広大な牧場の景色を楽しみ、午後は網張ビジターセンターを見学しました。同センターは、主に岩手山の植物についての展示をしてあり、岩手山の自然について学ぶことができます。ビジターセンターの見学の後、センターの隣にある薬師の湯で温まりました。薬師の湯は硫黄泉で43℃、内湯と露天風呂があり、露天風呂からは岩手山麓の広大な自然が眺望できました。岩手山麓は自然に囲まれているので、紅葉などの自然を堪能したい方にオススメです。



楽しい一日を過ごすことができました！



小岩井農場から臨む、岩手山と羊たち

新田小学校4年生出前講座

新田小学校4年生の出前講座が2日間にわたって行なわれ、伊豆沼・内沼に来る渡り鳥を学習しました。1日目は学校でスライドを使った話を聞き、2日目は沼の近くで渡り鳥を観察しました。望遠鏡を使ってマガンを観察したり、食物となる落ちモミなどを手に取ったり、興味津々に渡り鳥のことを学んでいました。



望遠鏡でマガンを観察する児童

伊豆沼・内沼生き物図鑑

オツネトンボ *Sympecma paedisca*



厳しい冬の寒さを成虫の姿で乗り越えるイトトンボの仲間。冬の間、伊豆沼・内沼周辺のヤブの中や樹木のすき間でじっとしています。その姿は名前の由来にもなっていて、漢字で「越冬蜻蛉」と書きます。春になり暖かくなると水辺に移動し、交尾をしてヨシの葉に卵を産みます。卵期間は1～2週間で、幼虫は夏まで水中で暮らします。羽化をして成虫になると翌年の春まで繁殖することなく、ハエやカなどのエサをたくさん食べて栄養を蓄えます。日本に生活するトンボは約200種。その多くが幼虫で越冬します。成虫の姿で越冬する日本産トンボは3種だけです。そのうち、オツネトンボとホソミオツネトンボ *Indolestes peregrinus* の2種が伊豆沼・内沼で暮らしています。運が良ければ、積雪した沼周辺でトンボ成虫に出会えるかもしれません。

〈事務局〉

〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

ホームページ: <http://izunuma.org>

Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217

E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp